

高病原性鳥インフルエンザ防疫措置のステップアップ

秋田県中央家畜保健衛生所
○清水典子、小原 剛

[はじめに]

令和3年11月10日、本県A市の約14万5千羽規模の採卵鶏農場で、本県で初めての高病原性鳥インフルエンザ（以下、HPAI）発生が確認された。県内初事例ということもあり「情報伝達の混乱」「資材・人の輸送体制の遅れ」「初動防疫資材の不足」等多くの問題点が発生し準備・防疫措置における混乱が多数発生する結果となった。

そこで、本県のHPAI発生を契機に防疫措置体制を改善し、一定の成果がみられたのでその概要を報告する。

[県内HPAI発生前の防疫演習実施状況]

県内HPAI発生前の8年間に実施していた防疫演習について、座学および実地演習の内容を図に示した。カッコ内は実施回数を示す（図-1）。

演習の主体は実地演習であり、座学との連動性に欠け、各防疫拠点ごとの部分的なものとなっていた。演習参加者は、農場からの異状鶏通報から防疫措置完了まで、一連の流れを共通認識するのが難しかったと推察される。

座学演習	実地演習	各作業毎の部分的演習
◎座学演習 <ul style="list-style-type: none"> 発生状況確認（8） 防疫マニュアルに沿った連絡体制確認（6） 防疫措置の流れと準備体制の確認（1） 	◎実地演習 <ul style="list-style-type: none"> 防疫作業従事者防護服着脱法（5） 防疫作業従事者健康調査法（2） 農場防疫作業法【捕鳥、運搬、殺処分】（2） 畜産関係車両消毒法（5） 集合施設設置および動線確保法（1） 埋却地試掘（1） 	

○内：実施回数

図-1 県内HPAI発生前の防疫演習実施状況

[防疫演習参加者アンケート

（県内HPAI発生前）]

防疫演習参加者にアンケートを実施したところ、防疫措置全体の流れを理解できた参加者は全体の6割弱で、HPAI発生時に迅速な防疫措置を実施できるか不安の残る結果であった（図-2）。

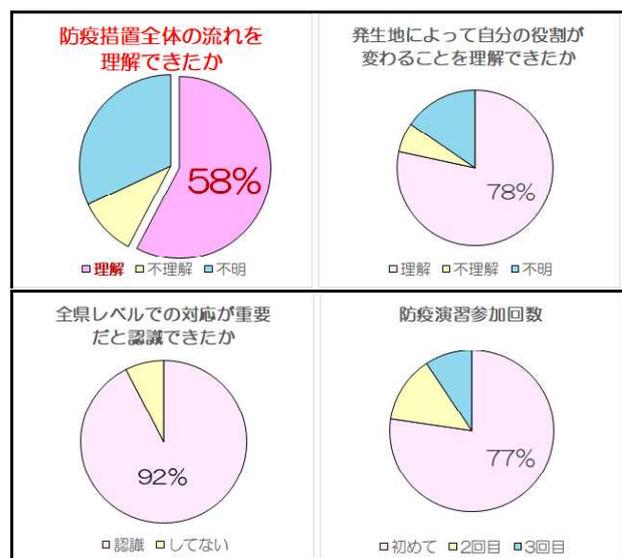


図-2 防疫演習参加者アンケート

[秋田県におけるHPAI発生事例]

そんななか、令和3年11月、横手市にある約14万5千羽の採卵鶏農場で、秋田県において初めてHPAIの発生が確認された。県内初事例と言うことも重なり、「情報伝達の混乱」「資材、人の輸送体制の遅れ」「初動防疫資材の不足」等、多くの問題点が発生し、準備・措置における混乱が多数発生する結果となった。

措置完了後、従事者からは待遇や防疫面を中心に様々な不満、要望が寄せられたが、赤で示した、改善に向けて我々が取り組める内容について、早急な対応が必要であると痛感させられた（図-3）。

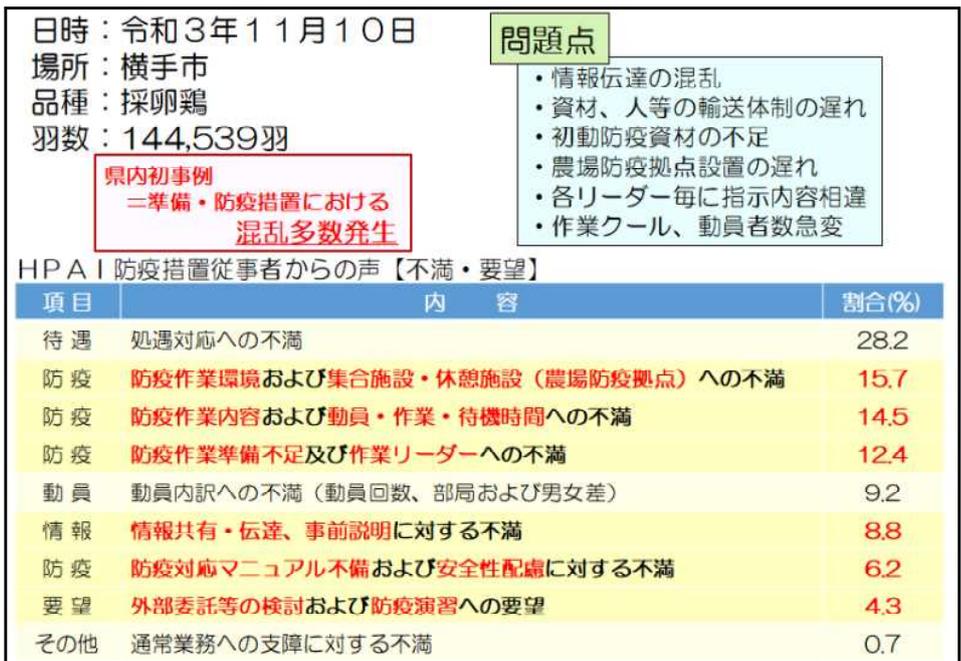


図-3 秋田県におけるHPAI発生事例（初発事例）

[問題点の整理]

対応のため、本県でのHPAI防疫措置完了後、防疫措置従事者からの声を受け、何が問題であったのかを整理するため3つの項目に区分した（図-4）。

まず、防疫マニュアル関連では、部局間連絡体制が不明瞭であり、不明確な動員体制と長時間労働、外部団体との認識共有不足が挙げられた。次に、事前準備関連では、資材輸送体制の準備不足、防疫資材整理の不備、防疫拠点設置不足。最後に、防疫措置関連では、リーダーの認識不足、作業手順の認識不足、従事者目線の防疫演習不足も挙げられた。これら整理した項目について、改善に取り組んだ。

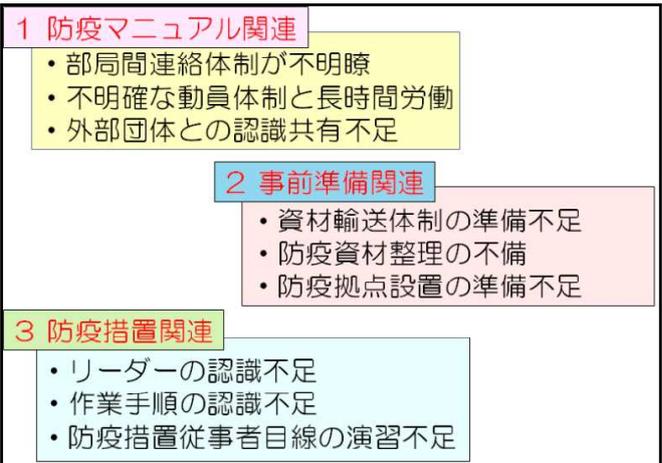


図-4 問題点の整理

〔問題点の改善①〕

1つ目の改善として、まず防疫マニュアルを改正し、各部局の連絡先、役割、連携を明確化し、協力機関との連携・動員体制を見直した。

さらに、「防疫作業のしおり」を作成し、動員者の役割、作業手順、注意点を明瞭化した。

マニュアルの改正を受け、農場ごとの防疫計画も改定し、農場情報詳細の見直し、準備資材項目の追加を行った。また、防疫措置クール数を、1日4クールから6クールに変更するなど動員者の労働負担を軽減した（図-5）。

改善①-防疫マニュアル関連-

秋田県高病原性鳥インフルエンザ及び低病原性鳥インフルエンザ防疫対策マニュアル

防疫マニュアル改正

秋田県
平成23年 3月策定
平成25年 2月改正
発効 4年 4月改正

発生農場における防疫作業のしおり

防疫作業のしおり作成

高病原性鳥インフルエンザ編

高病原性鳥インフルエンザ等の防疫措置について

鳥インフルエンザは伝染力が極めて強く、発生農場から他の農場等に感染し、養鶏業者が感染したときメーグを介する恐れがあります。このため、発生農場から伝染防止を図るため高病原性鳥インフルエンザ発生に関する防疫措置は関係機関と連携し、発生農場から伝染防止を図るための防疫措置が実施されています。

秋田県

高病原性鳥インフルエンザ防疫計画改訂

農場防疫計画改訂

ex) 殺処分

① ② ③ ④

1日4クール → **クール数変更**

① ② ③ ④ ⑤ ⑥

1日6クール **動員人数固定化**

各部局（全庁内）

- ・連絡先、役割、連携
- ・協力機関との連携
- ・動員体制

の**見直し**

防疫作業従事者

- ・作業役割分担
- ・作業手順
- ・注意点喚起

を**明瞭化**

対策本部、家保、関係機関

- ・農場情報の詳細
- ・準備資材項目
- ・防疫措置クール数

の**追加、変更**

図-5 問題点の改善①

〔問題点の改善②〕

2つ目は、事前準備を改善するため、資材運搬体制を整理した。輸送車両確保と資材積み下ろし対応者を整理し、家保職員以外でも対応可能とした。特に輸送車両について、運搬の時間帯により協定締結先又は県公設試のトラック利用を整理した。

また、備蓄資材の整理を行い、初動対応資材として、第1クール分

（4時間、12,000羽規模対応資材）を中央家保車庫内に整理備蓄した。

第2クール以降の必要資材は、県の防疫資材保管拠点に整理備蓄した後、資材数、保管場所について地域振興局と共有した（図-6）。

改善②-事前準備関連-

◎資材運搬体制の整理

- ・輸送車両確保（協定締結先または県公設試）
- ・資材積卸対応者の整理（家保職員以外で対応可）

時間帯により対応可能な車両を事前確保

◎備蓄資材の整理

資材数、保管場所情報を地域振興局と共有

初動対応資材の整理備蓄

第1クール（4時間）分

※12,000羽規模

中央家保車庫

第2クール以降必要資材の整理備蓄

県・防疫資材保管拠点

図-6 問題点の改善②

〔問題点の改善③〕

3つ目は、先に述べた2つを整理・改善した後、防疫演習を見直し実施した。

各防疫拠点のリーダー研修を行い、統一性のある指示体系が可能となるようスキルアップを図った。さらに、全体的な防疫演習は、座学演習と実地演習を連動的に実施するとともに、防疫演習参加者が準備そして総益措置開始から完了まで、一連の流れを認識・共有できるように従事者目線に配慮したものにした（図-7、写真-1）。

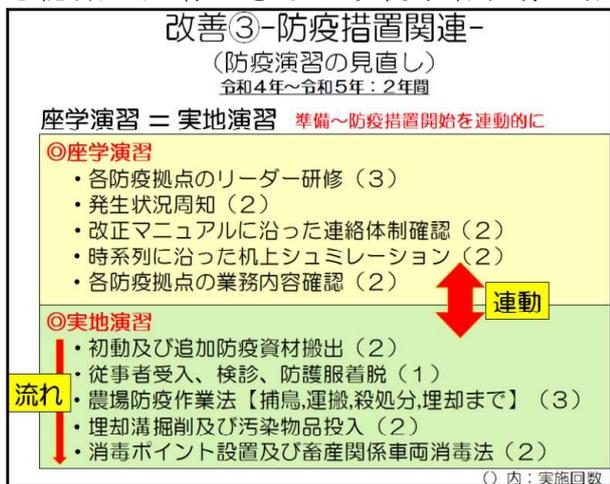


写真-1 改善後の防疫演習



図-7 問題点の改善③

〔問題点整理改善後の防疫演習参加者アンケート〕

問題点整理改善後に行った防疫演習参加者にアンケートを実施したところ、防疫措置全体の流れを理解できた参加者は全体で9割以上に飛躍的に向上した。

その他の項目も軒並み改善しHPA I発生時の迅速な防疫措置に期待が見てる結果となった（図-8）。

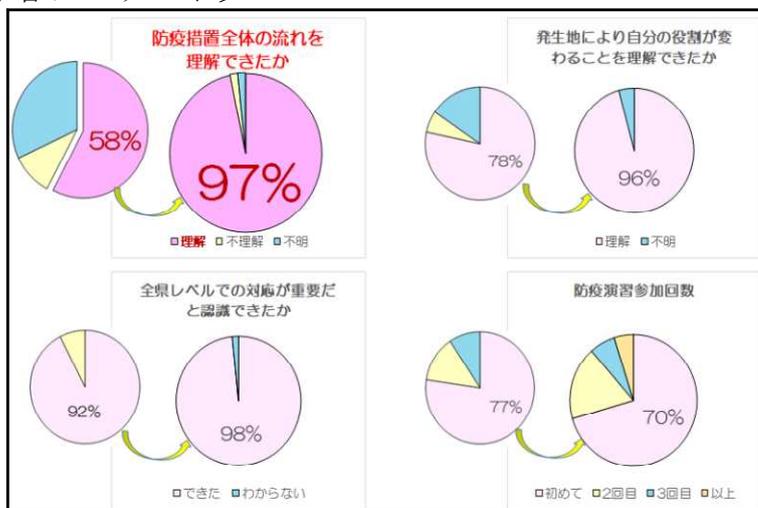


図-8 問題点改善後の防疫演習参加者アンケート

〔HPA I 疑い事例への対応〕

今年度、管内養鶏場においてHPA I 疑い事例が発生した。令和5年12月14日、農場から異状鶏の通報を受け、農場立入を行い、13羽中2羽から簡易検査陽性の結果を受け、準備対応にあたった。

精密検査の結果、HPA I への感染は否定されたが、簡易検査陽性から約9時間以内で、集合施設、農場防疫拠点、消毒ポイント等、直ちに防疫措置へ移行できる準備が完了できた。これは、本県のHPA I 発生後2年間で取り組んできた成果が発揮さ

れたものと考えられた（図－9）。

HPAI疑い事例への対応		※肉用鶏 約5,000羽飼養
[R5.12.14]		【集合施設】
8:40 農場から異状鶏の通報		
10:20 農場立入検査		
12:30 簡易検査陽性 (2羽/13羽)		【農場敷地・農場防疫拠点】
県・地域危機管理連絡部設置		
15:30 地域危機管理連絡部会議開催		
集合施設、消毒機以外確保		
地域建設協会等へ協力要請		
17:00 防疫資材搬出開始		
18:00 集合施設設置開始	約9時間	
20:00 農場防疫拠点準備完了		
21:00 消毒機設置完了 (3カ所)		
21:30 集合施設準備完了		
[R5.12.15]		
1:30 遺伝子検査陰性 (0羽/10羽)		
4:30 農場再立入検査		
簡易検査陰性 (0羽/3羽)		
7:00 HPAI 陰性判定		

図－9 R5年度発生したHPAI疑い事例への対応

〔まとめと考察〕

HPAI発生に備え、毎年、防疫演習を実施していたが本県のHPAI発生前は実地演習が主体であり座学演習との連動性が欠如し、防疫演習参加者の理解度は低迷していた。そのため、本県でのHPAI初発生時の防疫対応において準備や防疫措置で混乱が多数発生し、従事者から不満や要望が続出する結果となった。

そこで、問題点を整理・検証し防疫マニュアルの改正、防疫作業のしおりに作成した。また、リーダー研修実施により、スキルアップを図るとともに、座学演習と実地演習を連動化した演習を実施した。

その結果、参加者の認識の共有が図ることができ、理解度は飛躍的に上昇した。このことは、今年度発生した管内養鶏場でのHPAI疑い事例への準備対応において、簡易検査陽性から約9時間以内で円滑な防疫措置開始準備が完了できたことで実証された。

今後も、迅速な防疫措置のために必要な3大重要ポイントである事前準備、明瞭な指揮系統の確立、全防疫措置従事者の共通認識について連動性を重視した取り組みを継続することにより、防疫措置体制のステップアップさらには、対応力のある体制構築に努める所存である。